

I 平成30年度の状況

第四期3ヵ年計画が策定され、各部署や各委員会が「計画」を基にスタートした。また平成30年度より、法人本部に職員を配置し、組織的にも新体制でスタートとなった。平成28年度は地震発生（鳥取県中部地震）。平成29年度は災害復旧工事。平成30年度は、記録的な大雨や猛暑。中でも春から秋にかけて台風が次々と発生し、何度も自主避難を行った。中国地方では大変な被害のあった地域もある中で、当法人が経営している施設では、幸い「無災害」であった。そんな中、徳本地区急傾斜地崩壊対策事業が本格的に動き始め、当法人としても協力することとし、法人所有の土地の一部を鳥取県に売却した。

各種事業の経営としては、三喜苑西郷（通所介護）の利用者確保がなかなか進まず、引き続き課題となっているが、法人全体での事業活動による収支差額は、目標達成できている。

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① 第四期 3ヵ年計画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・第88回理事会(H30.11.25開催)にて第三期3ヵ年計画の評価と第四期3ヵ年計画の策定について報告を行い、各部署、各委員会が新たな計画を基に取り組み開始した。 ・平成30年3月及び11月職員全体会において、第四期3ヵ年計画の概要・詳細説明を実施
	② 法人理念と苑是に基づいたサービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス向上委員会、主任リーダー会を中心にあいさつの取り組みを実施。評価方法…接客アンケート実施(対象:利用者・家族・取引業者 計240名に配布し174名回答あり/評価基準:良い・悪い) ①あいさつは明るく笑顔でできていますか 良い99% ②言葉遣いは丁寧でしたか 良い99% ③身だしなみは(髪型・服装)はどうでしたか 良い99% (※平成29年度の評価基準は4段階「大変よい・よいの評価は90%以上」) ・1月全体会「接客向上」…76名参加(欠席者:伝達研修実施)
	③ 健全経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・法人情報公開（全国経営協の会員法人情報ホームページ・当法人ホームページ上で公開し情報を更新）
	④ 新規事業の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度決算における社会福祉充実残額△296,590,000円のため社会福祉充実計画策定は不要ではあるが、公益的取組(地域貢献)は実施した。
能力開発	① 職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各種研修会を毎月実施 (全体会:平均76名参加(前年度73名) /職員研修:平均27名参加(前年度27名) /施設外研修延べ259名参加(前年度延べ230名) /新人研修:年間3回実施) ・拠点間ネットワーク:情報共有・時間短縮を目的に、現在もなお検討中である。 費用:安全性を確保するためにはそれなりの負担必要 効果:各拠点から三喜苑内のデータサーバに直接接続できる(頻度・利点)
	② 資格取得の推進	<p>平成30年度実績(取得状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士2名 /各研修等修了者:認知症実践者研修2名、認知症実践リーダー研修3名、喀痰吸引3名、幼児体育指導者2級2名、鳥取県保育士等キャリアアップ研修4名(幼児教育2名・障がい児保育1名・マネジメント研修1名)
	③ ルールの再確認と徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・法人本部をはじめ、通所介護事業所、賀茂保育園、ケアハウスで鳥取県の指導監査を受け、指摘事項については概ね改善した。(概ね:改善できるタイミングがあるため)
地域	① 地域貢献の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防教室(出前レク含む)を13回開催した(前年度5回)-介護教室4回、出前レク9回 ・福生会祭り(6/9開催)約200名(前年度約240名) ・第8回論語三代(11/23開催)220名(前年度160名)

地域	② 情報開示	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ…9/18リニューアル。「福生会ニュース」月平均17件情報発信 ・機関紙「太陽」…年4回発行（平成31年度から町内全戸配布となる）
	③ 防災意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年7月7日三朝町に大雨特別警報発令。また一部の地区に避難勧告。三朝町との防災協定に基づき要援護者の避難受入れを想定するも、町からの要請はなし。
業務	① 人材の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採用職員研修を7回（対象16名）実施した。（前年度9回21名）（免除者：4名 内訳 再就職者2名及び障害者トリアル雇用者2名） ・専門職採用…介護福祉士4名・保育士4名 ・エルダー制度の実施（基礎的知識経験をもった職員が、新人職員を一定期間指導する仕組） ・感動笑顔フォトコンテスト：55点応募あり（前年度60点）（法人内コンテスト） ・20年勤続表彰者：2名/10年勤続表彰者：16名
	② 事業の安定的継続	<ul style="list-style-type: none"> ・事業活動による収支差額（目標プラス3%以上）結果は4.25%（前年度5.19%）
	③ 計画的な経営管理と資金活用	<ul style="list-style-type: none"> ・介護記録システム：導入、設定完了、操作研修開始 ・故障により、年度当初計画になかった固定資産物品の入れ替えがあったが、概ね計画どおり実行できた。（補正予算・手続等） ・各種補助金等活用 <ul style="list-style-type: none"> ①鳥取県正規雇用転換促進助成金申請（介護老人福祉施設5名150万円） ②鳥取県結核予防費補助金申請（介護老人福祉施設入所者59名19,784円） ③特定求職者雇用開発助成金（介護老人福祉施設2名：80万円）等
	④ リスクマネジメントの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練回数（三喜苑） <ul style="list-style-type: none"> ①避難訓練2回実施 ②夜間想定通報訓練2回（そのうち1回は抜き打ち） ・GH仁の里：大雨特別警報や台風接近により三喜苑へ自主避難（4回） ・三喜苑西郷：「洪水時の避難確保計画」策定 ・平成29年に策定した三喜苑「避難確保計画」見直し中 ・職員の労働災害：1件（休業なし）
	⑤ 職員の処遇改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックを実施（継続実施） ・一般事業主行動計画（次世代育成支援対策推進法に基づき策定）の周知（在職者：衛生委員会及び主任・リーダー会を中心に職員へ周知 新規採用者：新規採用職員研修で説明・周知） ・健康診断実施（対象者：全職員（深夜労働者：2回実施）） ・介護職員処遇改善加算及び保育所職員処遇改善等加算を活用⇒賃金等の処遇改善を実施した。 ・役職員給与規程の改正：「担任手当」新設、キャリア手当対象資格など拡充した ・鳥取県最低賃金改正（10/5発効）に伴い、警備員日給を改正した。 ・「働き方改革」に伴い、法の施行に対応し取り組んだ。（対応策を検討した上、規程等の改正を提案した。（理事会承認済））

注1 ICT=information and communication technology
情報処理・情報通信分野の関連技術の総称

注2 IOT=Internet of Things

家電、医療機器等、多種多様な「モノ」がインターネットに接続され、相互に情報をやり取りすること

平成30年度 賀茂保育園 事業報告

I 平成30年度の状況

地域貢献の取り組みと未満児の入園を増やすために、未就園の未満児対象のオープンデーを2回実施した所、延べ20組の申し込みがあり、求められている取り組みであったことを実感した。

また、SIDS（乳幼児突然死症候群）の予防のため、0歳児の午睡チェックシステムを導入し、安全面での対策にも取り組んだ。年度末におこなった保護者アンケートの回答は、賀茂保育園の特色である論語・お茶会・坐禅などを通しての心を育む保育、発達年齢に応じた運動遊びでの体作り、自然保育の経験を通して生きる力の基礎作りが保護者に認知され、殆どの保護者が理解を示し高評価であった。しかし、保護者から指摘された課題もあるので、今後改善に取り組まなければならない。

平成30年度保育所保育指針で求められていた「全体的な計画」は作成でき、年齢別の保育のねらいを確認しながら、保育に取り組むように改善した。

設備面では、以前から三朝町に要望していた未満児用の滑り台を設置していただいたこと、また設備の修繕費については、今年度からすべて町負担で実施していただけるようになった。

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① 質の良い保育の提供	・今年度実施した保護者アンケートで、保育園の取り組みに高評価を得た。論語やお茶会・坐禅、運動遊びや自然保育などが賀茂保育園の保育の特色として認知されてきた。
	② 子どもの発達保障	・年齢別の到達目標を確認し合うことで、意識・認識の統一が図れた。
	③ 安全・安心な環境整備	・園外保育は、目的地までの下見と事前の打ち合わせ、実施後の反省会を定例化できた。 ・今年度から午睡チェックシステムを導入し、午睡時のSIDS（乳幼児突然死症候群）の予防に努めた。
	④ 情報提供	・クラス便りを毎月発行、福生会ニュースは各クラス1回以上/月発信することを目標にし達成できた。個人懇談・クラス懇談も実施し、気になる家庭については保護者と話す機会を増やした。
能力開発	① 職員の資質向上	・職員が、自己評価により課題を見つけ、改善に努めた。
	② 研修への参加	・町外の園の研究会に6名が参加し、それぞれの園の取り組みや工夫点などを持ち帰り、自園の保育の参考とした。 ・幼児の体育指導検定2級、新たに2名取得した。 ・県が実施するキャリアアップ研修も、積極的に参加した。
	③ 公開保育の実施	・公開保育を実施し、中部教育局の幼児教育アドバイザーから指導助言をいただき、日々の保育に役立てた。 2回実施予定だったが、町教委の都合で1回は中止となった。
	④ 園内研修の充実	・保育の「全体的な計画」の作成に取り組み、完成させた。 ・職員会などで、研修終了した職員から報告を受け情報を共有した。
地域	① 他園との交流	・以前からの取り組みであるが、継続して参加し交流を深めることができた。新たな取り組みとして、竹田保育園の園児が来園し、本園児と交流した。
	② 小・中学校との交流	・プール交流やお茶会交流で、就学前の子ども達と小学校1年生との交流を通して、小学校への期待や親しみを持たせた。

地域	③	福祉施設・地域との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して交流を図り、特に夏休みボランティアスクールは、延べ36名の小・中学生を受入れた。 ・三喜苑との交流など、計画的に実施できた。
	④	地域社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児対象のオープンデーを2回実施し、同年齢の子ども達が保育園で過ごす様子を知ってもらうことができた。
業務	①	職員間の協力体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラス、未満児、以上児担当など、小規模の話し合いの機会を多く作り、相互理解に努力した。
	②	保護者との信頼関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートを実施し、保護者の満足度や要望を聞くことで今後の保育に役立ていけるようになった。
	③	安定的な経営	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は3月中途に園児数100名（定員100名）になったが、今年度は10月に定員100名を充足でき、3月末には104名となった。

平成30年度 指定通所介護事業 事業報告

I 平成30年度の状況

地域包括支援センターや各居宅事業所、病院等と連携を図りながら重度の方の受け入れも行うことで事業所からの紹介もあり、デイサービス利用者数は確保できている。

認知症の進行や身体の機能の衰えにより自宅での生活を続けることができなくなり施設入所されたり、ショートステイを長期間利用される人が増えてきており、要介護度の高い方がデイ利用を中止され、要介護度の軽い方がデイ利用される傾向がある。

少しでも長く在宅での生活を続けていけるように重度化を防止し、「心身機能」「活動」「参加」に焦点を当て、個々にあった支援を提供していくことが大切となっている。

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① 利用者に応じた機能訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> 機能維持・向上者数70%達成。H31年度事業所評価加算取得。 機能訓練1日平均20人以上実施。 バーセルインデックス(ADL(日常生活動作)を評価する方法の一つ)毎月55人~60人実施。H31年度ADL維持等加算取得。 体力測定を6月・12月に実施(28名) 5m歩行については16名の方が歩く時間が早くなっていた。
	② 能力に応じた自立した活動の提供	<ul style="list-style-type: none"> 個別アセスメントシートは介護記録システム導入決定後に入力。 趣味活動の提供 テーブルレク(1日平均4名参加) 体を動かすレク(1日平均24名参加)、物作り(1日平均4名参加)を利用者の好みに合わせて実施。 今年度から学習療法を導入。月平均15回実施。(24名) 認知症Ⅲa以上のプラン作成 13名の対象者のテストと評価を実施。 デイミニ作品展を8月、2月実施。11月全体の作品展に出展。
	③ 家族・各事業所との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 事業所訪問平均8件/月訪問。相談電話件数20件/月以上。 家族懇談会7、12月に実施。計5名の参加。 家族アンケート実施(11月)。95名配布、67名の回答(70%)
能力開発	① 資質向上と人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 合同勉強会を開催。5月-腰痛予防 10月-感染症 11月-認知症 1月-法令遵守。 レクリエーション研修への参加 7月体調不良で欠席。それ以外は実施月に1名参加。 施設内研修2回以上参加 ⇒ ①2回以上の参加 5名 ②1回参加 5名 ③家庭の事情で参加できず 1名 施設外研修 延べ21名参加。
	② 専門性向上の資格取得の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学習療法マスター1名取得 認知症リーダー研修1名修了
	③ 接遇の向上	<ul style="list-style-type: none"> 1月の全体会(接遇研修)に全員参加した。以降のミーティングでも振り返りを行い、業務に活かした。(継続中) 職員評価表(年2回実施)の挨拶最終評価4を目指したが達成できず(評価1~5段階 5が最上位)。今後も指導を継続。 前期評価: 4-6名、3-7名、2-1名 後期評価: 4-7名、3-5名、2-1名(1名育休中、対象外)
地域	① 出前レクリエーション、介護教室の実施	<ul style="list-style-type: none"> 出前レク9回 余戸6名、西小鹿12名、加谷12名、坂本5名、曹源寺10名、木地山12名、高橋6名、神倉7名、三朝19名参加。 介護教室3回 西小鹿(腰痛予防)12名、加谷(脱水について)12名、高橋(脱水について)6名参加。
	② 地域交流会への参加	<ul style="list-style-type: none"> 三朝をなんとかしよう会 年3回開催、延べ13名参加。 キュリー祭、一斉清掃、町駅伝に参加。
業務	① 利用率、稼働率の向上(収入月額 680万円)	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数実績: 介護保険利用者35.0名/日(要介護26.3名/日(要介護26.3名/日(目標24名/日)・要支援8.7名/日) 収入月額 平均755万円。目標達成。 情報交換実施した。9月-三朝町社協、11月-谷口病院、E sola(デイサービス) デイ新聞を計画通り、年4回発行・配布した。 担当者会議 延べ171件参加 出席率100%(情報提供含む)
	② 業務改善	<ul style="list-style-type: none"> 通所ミーティング(毎月)は5回家庭の事情で参加できない職員が1名あったが、その他は全員参加できた。 介護記録システム導入。基礎データ入力中。
	③ 送迎中の事故をなくす	<ul style="list-style-type: none"> 送迎方法について、その都度新規利用者の自宅を確認、周知した。 運転部門との情報共有は夕方のミーティングで実施。また、緊急の要件は、都度連絡を行っている。

平成30年度 認知症対応型通所介護事業 事業報告

I 平成30年度の状況

いつまでも在宅で生活できるように、家庭的な雰囲気を持続し、食事作りや味付け、食器の片付け等ゆったりと落ち着いて生活できる環境づくりをした。又、下肢訓練のリハビリメニューを取り入れ、安定した歩行状態の維持に心がけた。職員間での介護・接遇チェックを行い、利用者自身が持つ力や意欲が引き出せるよう資質向上に取り組んだ。

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① 満足度の向上	・利用者の希望に添った生活、手芸等特技を活かした関わり、調理活動を通した家庭的な生活の提供に心がけた。天候に合わせ利用時の散歩、日光浴の実施、花見、雛めぐり等。季節に合わせた外出も行い満足して頂けた。
	② 在宅生活の維持	・日課の体操、脳トレ、手芸、声を出すこと等、職員と一緒にできる訓練や生活の中でできる洗濯物たたみ、調理活動など生活の中でできる洗濯物たたみ、調理活動など生活の一部として、継続して行った。家族へ伝える為、カンファレンスへの職員の参加や連絡ノートの活用をしたが、それだけで伝えきれないことがあった時には電話連絡するように心がけ、在宅生活が維持できるよう努めた。
能力開発	① 学ぶ意識・資質の向上を目指す	・認知症に関する研修にGHとの兼務職員が参加。資料等での伝達講習を実施した。
地域	① 地域の方との交流	・わらわあ会（認知症カフェ）、地域交流会（年4回延べ8人参加）を通して地域の方との交流ができた。防災訓練は地域の方との訓練は無かったがGHの方と一緒に日中行うことができた。
	② 防災訓練の実施	・消火訓練や地震訓練についてGH利用者と一緒に実施した。
業務	① 働きやすい環境整備	・協力しながら業務に当たっている。残業もなく定時に帰れている。
	② 安定的な経営を目指す	・月平均利用者36.7人（目標：月45人以上）。利用者減となり、目標人数に達せず。10月～12月は利用者増になっていたが、毎日利用の方が利用中止となり、その後減少した。各事業所へ紹介依頼中。
	③ 接遇力の向上	・接遇チェック表実施。ミーティング時や気づいたときに直すところは注意している。

平成30年度実績	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働日数	308	25	27	26	26	27	25	27	26	25	24	24	26
利用者延人数	440	30	34	35	33	34	25	53	56	52	29	28	31
1日あたり利用者数	1.4	1.2	1.3	1.3	1.3	1.3	1.0	2.0	2.2	2.1	1.2	1.2	1.2

定員 3人
 最大利用人数 924人＝稼働日数×定員数
 利用率 47.6%＝利用者延人数÷最大利用人数*100
 1月あたり 36.7人

平成30年度 指定介護老人福祉施設 事業報告

I 平成30年度の状況

I V Hや胃ろう等医療依存度の高い利用者が短期間のうちに入院をくりかえされたり、入院が長期間に渡ることもあった。また、入院に至らないまでも施設内で点滴治療をすることが増えた。

利用者の重度化に伴い、介助量が増加、特に食事介助が必要な方が多くなってきている。

各専門職がその専門性を発揮し、多職種で協働してサービス提供を行うことがより重要となり、利用者に関わるすべての職種が情報を共有し、連携をはかった。

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① 専門的な介護サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回認知症ケア会議を開催し、検討した。 ・学習療法の実施（対象者4名、週3回） ・6名看取り実施。毎日来苑され、最期まで一緒に過ごされたご家族もあった。ご家族へも配慮した看取りができた。 ・終末期に関する意向確認を細目に行い、思いに寄り添えた。 ・月1回、歯科医師による勉強会を実施した。 ・口腔ケアに関して歯科医師に相談し、助言や指導を受けた。
	② 自立支援の介護の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・下剤服用者をなくすこと、オムツはずしは未達成。オリゴ糖と食物繊維の摂取で、便性状の改善、下剤服用回数の減少につながった。 ・自力摂取能力の維持について 対象者7名 能力向上1名、維持3名、低下2名、1名中止。
	③ 安心、安全、満足の得られる生活の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・調理活動を毎月実施。参加される利用者の人数が増えた。 ・虐待の芽チェックリストの実施。改善が必要な項目について対策した。 ・褥瘡危険要因度評価、褥瘡チェック（月1回）の実施により早期発見、対応できた。褥瘡発生率ゼロにはいたらなかった。 ・3月14日モデルルーム完成。今後の改装計画を検討する。
	④ 病院との連携をはかる	<ul style="list-style-type: none"> ・配置医師による対応その他の方法による対応方針を定めた。 ・配置医師緊急時対応、夜間帯に1回行った。 ・谷口病院と意見交換会を3回行い、課題、要望等について話し合った。 ・連携室を通すことで、受診対応がスムーズになった。
能力開発	① 効果的なミーティングの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットミーティングを日中に開催（月1回）し、参加人数が増え、会議が活発化した。 ・日中開催により、介護職員以外の他職種の参加も可能となりすぐに意見を聞くことができた。
	② 特養ミーティングで各種研修を開催し理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント、感染症予防、身体拘束、排泄ケア口腔ケア、看取り介護、認知症介護について各年1回研修開催。
	③ 研究発表の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：「認知症介護」1題と「褥瘡予防」1題を取り組んだ。県老協研修会で発表予定。
地域	① 地域の保育園や小中学校と連携や交流をはかる	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会実施（みささこども園1回、賀茂保育園3回） ・三朝西小、三朝中、賀茂保育園、みささこども園それぞれの運動会見学、町老人スポーツ大会に参加。
	② わらわあ会（認知症カフェ）へ参加する	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの保健室や地域交流会を兼ねたわらわあ会（認知症カフェ）へ参加した。週1回の習慣的な参加は難しかった。
	③ 福生会ニュースを掲載する	<ul style="list-style-type: none"> ・年36件掲載。行事以外に特養での生活の様子を掲載し、情報発信した。
業務	① 腰痛で休む職員をなくす	<ul style="list-style-type: none"> ・リフトの活用が定着した。その他福祉用具の活用については浸透しきれていない。 ・腰痛で休んだ職員はなかった。
	② 記録業務のシステム化（ICT化）	<ul style="list-style-type: none"> ・3月介護記録システムを導入。効率的な活用に向け勉強会開催。
	③ 安定的経営を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・平均入院者数4.1人/日 (平成29年度平均入院者数4.9人/日)

<平成30年度入所者状況>

平均要介護度：4.2

退所者数：17名（看取り6名、病院退所3名）

待機者数：108名

※参考：平成29年度

平均要介護度：4.1

退所者数：18名（看取り4名、病院退所3名）

待機者数：116名

平成30年度 指定短期入所生活介護事業 事業報告

I 平成30年度の状況

平成30年4月に介護報酬改定が実施された。その中で短期入所（以下ショートステイ）系サービスについては、看護体制の充実、夜間の医療処置者への対応、認知症研修修了職員の配置、医療機関とのリハビリテーション専門職との連携の加算が新設された。ショートステイの利用者は、要支援から医療的対応が必要な重度者まで幅が広く、在宅生活の継続の視点から特養利用者よりもきめ細かいサービス提供が必要である。また居宅のケアマネジャーとの連携が重要である。三喜苑においては、特養を待機している利用者の利用が増えている影響で、利用者の平均要介護度は3.6と高い。

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① 中重度者の受入れ（要介護3以上が70%以上）	・ H30年度の要介護3以上の利用者は85%であった。
	② 機能訓練の計画作成、他事業所との連携とアセスメント等の充実	・ リハビリ担当者が個別機能訓練計画の作成及び利用者の居宅を定期的に訪問して説明を実施。 ・ 10月より谷口病院のリハビリ担当と連携開始。現在2名対象。
	③ 認知症利用者への適切なサービス提供	・ 認知症対象者の利用実日数が50%を超えているので、認知症専門ケア加算は算定できている。 ・ 認知症ケア会議を開催(1回/月) ・ 学習療法導入（4月より週3回開催）
	④ 利用者のニーズに合った細かい対応と業務の見直し	・ ショート利用中のトラブル（退所時の薬や荷物の返し忘れが多い）発生月に委員会を開催し検証した。
能力開発	① 認知症利用者への対応力向上	・ 特養ミーティング内実施。施設内研修実施。認知症介護実践者研修1名、リーダー研修1名、リーダーフォローアップ研修1名参加。
地域	① 居宅ケアマネジャーとの連携	・ サービス担当者会議の出席（ケアマネからの依頼時）98%参加した。
業務	① 利用者確保	・ 空きベット利用平均は15.3%で目標30%を下回った。
	② 看護体制加算の算定要件確保	・ 看護職員体制（正看1名・配置基準+1名）を確保できなかった。
	③ 夜勤職員配置加算の算定要件確保	・ 認定特定行為業務従事者（介護士の吸引、胃ろうの対応）の夜勤者（毎日1名）を配置した。

	利用延べ人数	平成29年度	平成30年度	差
	要支援1	38	0	△ 38
	要支援2	11	100	89
	要介護1	150	186	36
	要介護2	824	752	△ 72
	要介護3	1,563	1,499	△ 64
	要介護4	1,912	1,954	42
	要介護5	1,627	1,330	△ 297
	合計	6,125	5,821	△ 304
	平均介護度	3.6	3.6	0.0
	1日平均人数(人)	16.8	15.9	△ 0.9
	1人1日収入(円)	11,112	10,986	△ 126

平成30年度 指定居宅介護支援事業 事業報告

I 平成30年度の状況

厚生労働省は、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、また、今後、認知症高齢者の増加も見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支える住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進している。地域包括ケアシステムでは在宅医療・介護連携の推進が不可欠であり、平成30年度の介護保険法改正においては、特に医療との連携強化を重要視され、医療機関との連携を積極的に取り組む居宅介護支援事業所は高く評価されるようになった。今後も選ばれる事業所、選ばれる介護支援専門員となるために、研修や事例検討会等で自らの質の向上を図る努力を行った。

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① 利用者の自立を支援する一連のケアマネジメントを適切に行う	・情報伝達会議で、月1回評価等手法についての確認を行った。
	② 医療との連携を強化し、入退院支援の充実を図る	・入院した利用者の情報提供を、病院へ入院3日以内に行うことを目標とし、実践できた。 ・入院した全ての利用者が退院する時には、状況確認を行い、必要に応じケアプランを変更、退院後の生活に支障が生じないように調整を行った。 ・上記2点を行うことを会議や管理表を用いて確認。入退院支援がスムーズにできた。
能力開発	① 研修等に積極的に参加して得たことを、自分の業務やケアマネジメントに活かし評価する	・事例検討会を予定通り開催し多部署、多職種の方の意見をもらい、実際の支援に繋いだ（法人内6回・居宅内5回・他法人2回）。また、事例検討会の開催により、事例作成や説明、進行力が付いてきた。 ・ケアマネ協や地域づくりしよいやの会、その他各種研修に参加したが評価まではできなかった。
	② 認知症利用者への対応強化	・認知症の利用者を事例検討会に取り上げたり、三朝をなんとかしよう会が開催した「ケアニン」上映会、認知症フォーラム、地域包括連絡会に参加。居宅独自で認知症についての勉強会までの開催はできなかった。
地域	① 多職種、多事業所、インフォーマルサービスとの関わりを強化する	・利用者に各事業所のサービス内容を説明できるように、各事業所との意見交換会を実施した。 （三朝町社協訪問介護、デイサービスそらいろ、リハビリ強化型デイサービスE sola、三朝みのりデイサービス） ・研究発表を通じ関わるができるよう取り組んできたが、今年度は具体的に実施することができなかった。
業務	① 利用者確保（介護報酬請求利用者を、要介護は87件/月、介護予防（介護予防・日常生活支援総合事業含む）プランは44件/月）	・流れや書式を確認し、業務や管理がしやすくなるよう適宜検討し、必要に応じ変更した。 ・ケアプランや会議録、支援経過等管理者が適宜確認した。 ・要介護利用者月平均84.4件、介護予防（介護予防ケアマネジメント含む）利用者月平均41.9件請求。
	② 介護報酬改定の内容の理解、適正な対応を行う	・平成30年度に報酬改定あり、改定内容を適宜会議を通じ周知し適正な対応を行った。

平成30年度 ケアハウス 事業報告

I 平成30年度の状況

日常生活動作全般にわたる機能低下や軽度認知症症状が見受けられる人が多く、予防レクリエーションや体を動かす事で進行しないように努力し維持ができています。しかし夜間に職員不在の為不安になられる方もあり、退居につながることもあった。退居者4名（グループホーム入居1名・入院で対象外2名・自宅復帰1名）。各事業所と連携し利用者の確保に努めた。

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① サービスの質の向上（全体）	・認知症予防レクリエーションを日曜以外に実施し認知症の症状悪化は見られなかった。また、外出計画を作成し皆さんが参加できるようにし喜んで頂けた。ミニ講座では予定通り実施し質問される方もあり振り返る事ができて良い機会だったと好評だった。（ミニ講座5回：リハビリ・認知症予防・防災・感染症予防・栄養）
	② サービスの質の向上（個人）	・個別対応までしなくてよいと言う人もあったがほぼ全員に対応し、生活の質の向上につながった。また、家族と常日頃より連絡を取り合い、特別な時には密に連絡を取り合い対応した。
能力開発	① 職員の資質向上	・各職員が玉木先生のレクリエーション研修に参加し、午後のレクリエーション活動に活かしていった。学習療法は職員1名が実践士を目指し学習し、利用者への取り組みを実践している。接遇については毎月自己評価し、ミーティング時に気づいたことを話しあい、向上に努力した。
地域	① 地域との交流の継続	・月1回のしゃくなげ喫茶に定期的に参加される方が数名あった。また、地域行事に参加して頂けるようタイムリーに行事を紹介し、参加を促した。三朝町主催の認知症講演会にも利用者が進んで参加された。
	② 地域貢献の実施	・年2回雑巾を縫って保育園に届けた。作成時の楽しさと提供時の嬉しさにとっても充実感を得られている。子供たちから感謝の言葉を受け、利用者の生きがいにつながっている。
業務	① 満床を維持し安定的経営につなげる	・退居が事前に分かっている時は、待機者等に早めに連絡し切れ目なく入居して頂けた。利用者が入院される事はゼロにはできなかったが、毎日の健康管理と早期対応に努力した。 (入院日数延べ260日)
	② ホームページの活用	・ケアハウスの行事の様子等を「福生会ニュース」に毎月2件以上掲載した。

平成30年度 グループホーム 事業報告

I 平成30年度の状況

5月より個々に合わせたリハビリメニューを取り入れることにより、機能維持ができつつあるものの、認知症状の進行も心配される。生活の一部の中で少しでも改善できるような脳トレ・行事等を実施し、達成感が感じられるよう心がけた。又、職員間で介護・接遇評価を行ったり、各種研修へ自主的に参加して資質向上に心がけた。

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① 利用者の主体性に配慮し関わる	・利用者のペースに合わせ興味のあるもの、特技を活かしたケアを継続した。調理活動、洗濯物たたみ、着替え等、自立支援のケアにも心がけた。
	② 活力のある生活を送る	・日課のテレビ体操に加えてリハビリメニューも実施した。また、自主的な歩行訓練など機能維持に努めた。日々の状態を観察し、いつもと違う点も注意しながら夜間帯への引継ぎを行う等、日々の健康観察に留意した。
	③ 地域とのつながり・開かれた施設を目指す	・山田区の総事に参加・広報誌配り・わらわあ会（認知症カフェ 月4～5回）を継続実施した。
能力開発	① 学ぶ意識・資質の向上を目指す	・レクリエーション研修に3名参加した。外部研修に職員が1回は参加し、また防災・感染症・コミュニケーション研修には、全員が参加し資質向上を目指した。
	② 認知症に関わる資格取得	・認知症実践者・リーダー研修各1名ずつ参加した。また医師会、ケアマネ協等外部での認知症研修に4名参加した。ミーティング時に資料を回覧し伝達講習を行った。
地域	① 運営推進会議の開催	・運営推進会議年6回開催。 事故対策へのアドバイスもいただき対策に活かしていった。
	② 防災訓練の実施	・避難訓練11月に実施。地区消防団から12名参加。防災訓練 年3回実施（通報・消火・地震）
	③ 地域に貢献する	・地域貢献の一環として地域交流会を年4回開催した。（わらわあ会（認知症カフェ）との同時開催）地域の方が平均7名参加された。
	④ 地域を理解し信頼関係を築く	・利用者（とんどさん1名、運動会3名）、職員（奉仕作業）に参加した。
業務	① 働きやすい環境整備	・全職員がリフレッシュ休暇（年次有給休暇）を年3日取得した。
	② 安定的な経営を目指す	・入院1日 入退居に伴い10日間の空室があった。 ・リハビリ加算5月より取得（利用者9名の加算あり）
	③ 接遇力の向上	・接遇チェック表及び、研究発表と合わせて接遇向上に努めた。 接遇チェック（毎日）実施した。